



プレスリリース No. 12/253

2012年7月7日

International Monetary Fund

Washington, D.C. 20431 USA

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による 日本訪問終了に当たっての声明

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、東京にて以下の声明を発表した。

「この数日間の滞在中、温かく歓迎して下さった日本の政府高官および日本の皆さんに深く感謝します。いつも日本に戻ってくるのを楽しみにしています。今回は、野田佳彦総理大臣、安住淳財務大臣、白川方明日本銀行総裁をはじめとする政府高官の方々、女性リーダー、そして大学生と非常に有意義な議論を行うことができました。

彼らとは、世界経済動向、アジアおよび日本への影響、そして、進行中の危機について議論しました。持続的な安定のためには、公的債務に対して協調して取り組み、金融業界を修復し、仕事を生み出す包括的な成長を達成する必要があります。

さらに、我々は日本経済、特に 2011 年 3 月の東日本大地震からの著しい回復について議論しました。回復は進んでいますが、日本経済は高い公的債務、急速に進む高齢化、低成長のリスクにさらされています。

私は衆議院で可決された消費税率引上げ法案に対して、強い支持を表明しました。日本の財政健全化への基盤を強化する一步とするために、この計画が実行されることが非常に重要です。税制改革は更なる構造改革、緩和的金融政策、および財政再建によって補完されるべきで、その中のどれもが成長に欠かせないものです。

また、私は日本人女性リーダーたちと非常に有意義な会談を行う機会に恵まれ、どうすれば日本における女性の労働参加を高め、そのことで日本経済の成長を高め維持することができるのかについても議論しました。さらに、私は慶応義塾大学で非常に素晴らしい学生達に会い、ますます相互に繋がっている世界におけるリーダーシップとグローバル市民について話しました。

今回は、10月に東京で開催される IMF・世界銀行年次総会が開催される会場も訪問し

ました。総会では、IMF の 188 加盟国が日本に集い、今我々が直面しているグローバルな挑戦や解決について議論をすることになります。

今回、再び日本へ戻ってくることができて大変うれしく思います。いつも温かくもてなしてくれる日本人たちに対し、深く感謝いたします。次回、年次総会のために 10 月に来日することを心から楽しみにしています。」